

瀬戸中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教材の提示の工夫や学び方の指導を通じた授業を実践する。
- 個に応じた指導を充実徹底し、自ら学ぶ態度を育てる授業を実践する。
- 学力の確実な定着に向けICT環境を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
園井忠泰	近藤 太 佐藤 浩 大森由美子 佐川佳織 糸林和彦	近藤 太

【小中連携または中高連携における共通の取組】

協働的な学びを充実させるためのホワイトボードの活用やノートを使った振り返りの仕方について、統一したものを作成して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた態度で前向きに取り組む、与えられた課題に一生懸命取り組める生徒が多い。 ○タブレットを活用して調べ学習ができる。 ●各教科で身につけた基礎的・基本的な知識を他の教科での学習で関連づけることに課題がある。	・自ら考えて家庭学習に取り組む、基本的な知識や技能の習得に継続して取り組むことができる。 ・身につけた知識や技能をつなげて考え、活用することができる。	・めあてを毎時間提示し、授業後には振り返りをさせる。 ・タブレット端末等を用いて、生徒に応じた個別の学習課題に取り組ませる。 ・自主勉強ノートにおいて、繰り返し書いたり、ドリル学習に取り組ませる。	・めあての掲示率100%をめざして、職員に声かけをする。 ・各教科において、AIDリルを活用し、個別の学習課題の解決に取り組ませる。	・各教科でめあてを提示し、学習内容についても筋道を立てて取り組むことができた。 ・タブレット端末を活用して、プレゼンを作成させたり、ワークシートに回答させることができた。 ・各教科でAIDリルの活用を試み、各単元の復習を行うことができた。しかし、AIDリルの活用の仕方や時間の取り方において、各教科で検討する必要がある。	・生徒が身につけた知識や技能の定着を図るために各教科でのノートの取り方やAIDリルを活用した朝学習の内容を検討する。 ・教職員の連携を強化し、生徒が家庭学習においても自主的・自律的な取り組みができるように支援する。 ・単元テストの活用による基礎学力の定着や定期テストの内容の見直し等について検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教科書やタブレット端末等を活用して調べたり、教師に質問しようとしたりすることができる。 ●学習した内容を短文で伝えようとする生徒が多く、自分の意見や考えをまとめて表現することに課題がある。	・文章を根気強く読むことで、内容を理解し、わかりやすく表現することができる。 ・各授業において、話し合い活動等を通して自分の考えをまとめ、解決する方法を考えることができる。	・本や新聞等を読む時間を設定し、記事等をまとめる時間を設定する。 ・授業での発問を工夫し、生徒が課題を解決する方法を考えることができるようにする。 ・各教科でタブレットを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進める。	・思考力・判断力・表現力等の育成を図れるように「思考ツール」を取り入れたワークシートや板書等を工夫をする。	・おはようメッセージや視写を通して、集中力が身につくなど、自分の考えや課題を解決する方法をまとめたりすることができはじめた。 ・各教科で課題に対しての発問やワークシート及び板書等に工夫が見られた。しかし、「思考ツール」を用いたワークシートについては、工夫・改善を図る必要がある。	・タブレット端末の活用の仕方を再検討し、他者と関わる場面を多く取り入れるなど、さらに生徒がインプット・アウトプットができるように工夫する。 ・各教科で「思考ツール」を取り入れたワークシートの工夫・改善を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に集中して取り組むことができ、板書をノートに写す等、意欲的に学習することができる。 ●家庭学習の時間(特に休日)が十分とれていない生徒が見られる。また、課題提出(宿題)やわからない問題等をそのままにしているところに課題がある。	・友人や教員の意見を受け入れ、課題の解決に向けて取り組もうとすることができる。 ・自分の学習の状況を振り返り、家庭学習の時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・夢の実現や目標達成のために行動目標を立てさせ、取り組み後の振り返りを継続し、生徒の自己実現につなげる。 ・わからない問題において質問時間をとるなど、その日の振り返りができているか点検し、家庭学習へとつなげるために課題の出し方や指示の仕方を工夫する。	・「群青」の記入により、先を見通すことや自己を見つめることができるように具体例を示し、生徒の自己実現の達成につなげる。	・「群青」等を計画的に活用し、PDCAサイクルをまわす経験を積み重ねることで、自分を振り返ることができ、学習面では放課後や休み時間に質問をしている生徒の姿が見られた。 ・自分の夢や目標に向けて意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。	・家庭学習の時間の確保についての手立てを考え、全職員で学力向上に向けて取り組んでいく。 ・今後も「群青」を活用し、生徒の夢の実現に向けての目標設定や振り返り等を行い、自己実現に向けて取り組んでいく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

